

# Die Eiche

ディ アイヘ  
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft  
der Präfektur Chiba  
〒274-082 船橋市飯山満 町 2-518-1  
清和会第2ワールドナースィングホーム内  
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

## 協会ロゴマーク 決まる!!

Die Eiche 総集編(Ⅱ)のデザインも  
創立 20 周年記念を機に

### ロゴマークは西阪知晃氏案、総集編デザインは 北村侑三郎氏案を採用、専門家が監修

創立 20 周年記念に募集していたロゴマークと、今年 10 月に発行される Die Eiche 総集編(Ⅱ)のデザインが 6 月の運営委員会で決まった。ロゴマークは名刺やバッジなど会員による活用が期待される。



以下、審査経過を報告する。

#### 審査委員長

宗宮好和氏(前会長)

### 応募作が採用された西阪、北村両氏喜びの声

#### ロゴマークの 西阪知晃氏

応募を Eiche で見て、日独の国旗とドイツ柏、協会の名前を組み合わせたものがすぐイメージとして浮かびました。名刺にしてよし、胸章にも合うように、と思い応募しました。もともとデザインが好きだったし、便箋や封筒に入れてもいいと思います。採用されて大変嬉しい。



#### Die Eiche 総集編(Ⅱ)デザインの 北村侑三郎氏

今度の総集編では、すっかりしたドイツ柏の写真を是非載せてみたかった。応募者が少なかったので採用されたのですが、やはり嬉しく思っています。裏表紙には、あまり知られていない落葉したカシワの写真も見てもらいたかったが、残念でした。



昨年 11 月 14 日付けで標記 2 件の募集を行いましたところ、締め切りの本年 2 月末までにロゴマーク 6 点、表紙デザイン 2 点の応募がありました。ご応募いただいた皆様に感謝申し上げます。3 月末までに決定の予定が大幅に遅くなり、6 月 11 日の運営委員会でようやく決定いたしましたので、ご報告申し上げます。

ロゴマークは 6 点の応募作のなかから西阪知晃会員のデザイン (A) に決まりましたが、手書きであったこと、Eiche の枝振りが現物とは異なることから、杉田事務局長のご息女小坂尚子さんに修正 (B) をお願いし、さらに千葉大学の工業デザイン専攻宮崎紀郎名誉教授監修のもと同大学院生安部青空さんの 2 度にわたる修正 (C) を経て最終デザイン (D) が決定しました。

Eiche (ドイツ柏) は古来ドイツ (人) の木とみなされ、不死、不屈の精神、さらには、忠誠心の象徴とされ、紋章、勲章、貨幣などのモチーフに用いられてきました。いまここに新たに Eiche をモチーフとする私たちのロゴマークが誕生しました。



(A)



(B)



(C)



(D)

「Die Eiche 総集編 (Ⅱ)」のデザインには表紙が北村侑三郎氏の案、裏表紙が西阪知晃氏の案 (一部修正) が採用されました。毎年慰霊祭が行われる船橋市立習志野霊園の中央に植樹された Eiche の写真が中心にきます。その青い空の色は裏表紙に続き、中央にはロゴマークが入ります。募集時期には冬枯れの Eiche でしたが、6 月に 2 度にわたって新緑に芽吹いて陽光を受ける Eiche の写真を北村氏に撮っていただきました。

## 100 年前のドイツ・ソーセージ 復刻した蜂谷正氏を囲んで 「ボトルシップ研究会」開く

ソーセージを復刻した蜂谷正氏（八千代市、デリカッセン DANKE）を招いて“食肉加工今昔”を聞いた。遠藤斌・会員の司会で進められ、蜂谷氏が「習志野をソーセージ発祥の地とするまち起こし」のために頼まれた経緯、ドイツで暮した“貧乏学生”時代などを熱心に語った。とくに、会員が関心を寄せたのは、当時の農商務省畜産試験場の技師、飯田吉英よしひさが残した膨大な資料を蜂谷氏が復刻の手がかりにしたことだった。

### 残されていた飯田技師の資料

飯田技師は俘虜で食肉加工 技術学校を卒業し加工業を経営していたカール・ヤーンら 3 人から学んだ「ソーセージと食肉製品の製造」などの資料、写真をそっくり、1955 年 90 歳で亡くなるまで過ごした故郷の茨城県かすみがうら市郷土資料館に寄贈していた。このため、蜂谷氏は同館の学芸員、千葉隆司氏からの指導、協力を得て当時のレシピを作り上げた。このレシピは依頼先である同商工会議所などに渡してある、と蜂谷氏は語り「その製造法は単純なものなので、メーカーや食肉加工の専門家なら簡単に作れる」という。



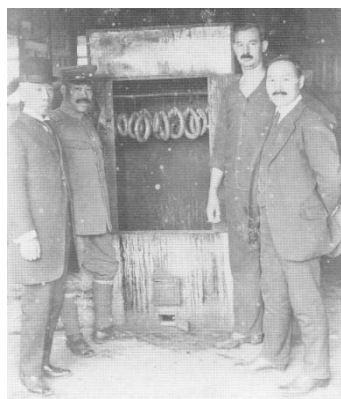
＜蜂谷氏（写真左）を招いて開かれた研究会＞

### 日本初のドイツ式ソーセージ

かすみがうら市郷土資料館によると、ヤーンらと飯田技師によるソーセージの「製造実験」の条件は①製造期間は 1918(大正 7)年 2 月 18～28 日まで。場所は捕虜収容所 ②製造の材料は畜産試験場が提供する ③製品の各種ソーセージは一部を畜産試験場用、残りは収容所 ④実験はヤーンが主任、2 人の捕虜を助手とする——だった。この実験でサラミ、メット、サーヴェラー、レバーのそれぞれヴルストなど貯蔵期間の長短により異なる 12 種類の製造が伝授された。この時の参考書は飯田技師が日本食肉加工協会へ寄贈し、現在はドイツ国立食肉研究所図書館に移されている。



＜左の写真右側前が飯田技師、後ろがヤーン。円内は晩年の飯田技師（資料館）＞



米国留学の経験もある飯田技師は米英とドイツのソーセージの違いを①ドイツは残肉を使わない ②製造法が比較的単純である ③ソーセージに穀粉を混ぜない ④防腐剤を加えない、と書き残している。

「ボトルシップ研究会」で、蜂谷氏は“復刻ソーセージ”をめぐる経緯などを披露しながら、江戸時代に出島のオランダ商館でソーセージが作られ、鳴門市の板東俘虜収容所でも作られたようで、「専門家の話しでは『日本にソーセージの製造法が伝えられた公的な記録としては習志野が一番古いというのは正しい』のであって“習志野はドイツ式ソーセージ発祥の地”であり、『ソーセージ発祥の地』と言うには齟齬がある」と、話している。

＜100 年前のソーセージは＞ 国民の体躯体力の向上を国策としていたわが国政府は農商務省の飯田吉英技師に命じ、ドイツ式の本格的なソーセージ作りを学ばせた。彼はほぼ 100 年前の 1918 年当時習志野俘虜収容所に収容されていた第一次世界大戦の捕虜カール・ヤーンらからその製法を伝えられたのだ。

当時のソーセージは豚肉、塩、香辛料だけを原料とし、現在のように発色剤、調味料、防腐剤などの混ぜ物は一切使わない。また、ケーシングと呼ばれるソーセージの皮は今と異なりすべて豚腸。ラード(豚脂)で炒めるのでパリッとした歯ざわりが特徴だ。近頃各地で催されるドイツフェアなどの露店ソーセージを実際に食べてみた方も少なくないだろう。そう、塩気が強く肉の甘みが引き立つのも特徴で、ビール党にはもってこいだ。新聞、ラジオ、TV などのメディアでも盛んに取り上げられている 100 年前のソーセージ。習志野商工会議所は特許庁に出願し、今年 5 月「習志野ソーセージ」としてブランド化して町おこしに乗り出している。大手食肉加工会社に生産を委ねて大量生産し、街のレストランやスーパー、居酒屋など提供する店舗を増やそうというわけだ。商工会議所のウェブ・サイト [http://www.narashino-cci.or.jp/narashino\\_sausage.html](http://www.narashino-cci.or.jp/narashino_sausage.html) に、店舗名が紹介されており、7 月上旬で 22 店を数えるという。

(遠藤 斌)



ドイツと私

## Meine heilige Stadt !



渡邊 邦美

ドイツ語との出会いはやがて半世紀も前になりますか。年末恒例の NHK 交響楽団の第九コンサートに当時音大 2 年生の私は単位取得の一環として参加した時でした。私たちはいきなり暗譜で歌えと、1 年間ドイツ語を必須科目にさせられて必死で「An die Freude!」を憶えました。暗譜で歌った合唱団は当時、私たち以外では二期会ではなかったのでしょうか。12 月が近づくのと内幸町の NHK の薄暗く小さなホールで、ドイツからの客演指揮者に何度も発音を直されて疲労困憊したものでした。

しかし、嫁いだ先で再びドイツ語と格闘をしなければならなくなるとは思ってもみませんでした。1967 年主人がドイツのアレクサンダー・フォン・フンボルト財団の奨学生としてフライブルク大学でドイツ哲学研究に従事することになったのです。そして 1 年 3 ヶ月後に私もいくことに。ドイツ語は学生時代に「置いて」きたもので戸惑うばかり。主人に教えを乞うても「外国語は自分で勉強するものだよ」と言い残して、大学紛争で揺れる中、羽田から発って行きました。フンボルト財団はあの頃、家族同伴を奨励していたのですが、初めの 1 年間はまず本人が異郷の生活に慣れるために単身での渡航でした。私はその間に昔のドイツ語の本を引っ張り出して必死でした。大きな不安を抱えて 1968 年秋に渡独しました。しかし、主人が用意した家はフライブルク市ロレット通り 41 番地でした（この通りの偶数列 40 番地にかつて E. フッサールが住んでいたといわれ、それで主人はここに居を決めたようです）が、ここでの 9 ヶ月は私の一生の内でもっとも「幸せで充実した時間」となったのです。



&lt;フライブルク大学 HP より&gt;

窓辺にホクシャの花が飾られたお伽の国のような家々、カスターニエンの花の下でコーヒータム、大学総長主催のパーティーで仲良くなった主人の関係する学部の方。その中で、画家の奥様が話してくれたお話しは生き方の基本でもあるように思えました。「子供たちには小さいときから何事も自分で考え選択し行動することを教えています。私がそう育ったし、人生とは選択の連続だから」と。家主さんとの共同使用の台所にいつも置いてくれていた私用の分厚い百科事典。ダーメンパーティで知り合い、ずっと面倒を見てくれた年配のドイツ婦人とその家族。ドイツ語と日本語を交互に勉強しあったウィーン出身の誇り高き中年女性。帰国してまもなくその方のご主人がその年のノーベル科学賞を受賞したとの新聞記事にはただただ驚くばかりでした。

また、ペーター教会で背中を丸めてバッハを演奏するグレン・ゲールド、大きな体育館でドイツリートを朗々と歌い上げるフィッシャー・ディスカウ。そしてフライブルク大学の正門両脇のホメロスとアリストテレスの像と正門上方に書かれた「真理は汝らを自由にする」の言葉。

あれから 47 年経ち、主人も含めてあの頃の知人はほとんどが鬼籍の人となりました。ただお一人まだフライブルク大学におられる主人の友人である先生とは新年のご挨拶を交わしています。先生はカードの終わりにいつも「aus Freiburg von Husserl, Heidegger und・・・」と主人の名前を書いて下さいます。

あの頃のフライブルクは私にとって meine heilige Stadt なのです。沢山の思い出と共に今なお心の奥深く色褪せることなく存在しつづけています、私の命のあるかぎり。

## 創立 20 周年 記念祝賀会概要固まる

船橋市営習志野霊園で 1995 年に行われた「ドイツ軍人慰霊碑建立 40 周年式典」の発議により、翌 96 年に当協会が設立されてから今年で満 20 年を迎えた。この節目に当たり、協会は次のように記念祝賀会を開催することになった。会員の皆さまは是非、ご参加を!!

日 時：2016 年 10 月 22 日（土）  
14:00 から  
会 場：船橋グランドホテル(JR 船橋駅北口から徒歩 1 分)  
電話：047-425-1121

祝賀行事：

第 I 部・14:00～16:00

記念祝賀式：会長挨拶、来賓祝辞、記念講演＝講師・フェリックス R. アインゼル氏(公財・日独協会理事、ゾンデルホフ & アインゼル法律・特許事務所代表)

演題「日独の新たな課題」(仮)

第 II 部・16:10～18:20

懇親パーティー(会費 6000 円)  
乾杯・挨拶/ チター演奏/ その他

写真展・14:00～18:10 会場で  
「協会 20 年の歩み」「ドイツと千葉県」など

今年度の総会で承認された創立 20 周年記念行事は、次の通り。

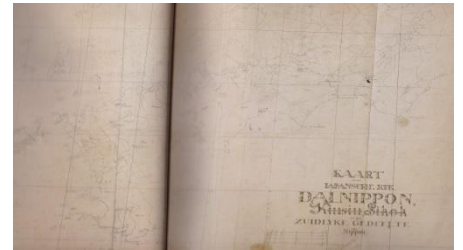
- ①新春講演会(1/23)内容記事は Die Eiche 2 月号(99 号)
- ②ドイツ旅行(5/20～29)同 記事 Die Eiche 6 月号(101 号)
- ③Die Eiche 100 号記念特集号(4 月号)
- ④Die Eiche 総集編(Ⅱ)＝ No. 47-100 号＝の発行・10 月
- ⑤Die Eiche 「20 周年記念特集号」発行・10 月
- ⑥記念祝賀会(10/22)  
黒マルの白抜き数字は実施済み



## 「日本博物館構想」 その実態に迫る シーボルト没後 150 年展 国立歴史民俗博物館で

トの博物館」。没後 150 年を記念してミュンヘン五大陸博物館所蔵のコレクションを初めて本格的に紹介したもの。9 月 4 日まで。

展示会の図録などによると、1823(文政 6)年、27 歳でオランダの商館付医官として来日したシーボルトは、日本の動植物や生活と文化に大きな関心を寄せた。禁制の日本地図を持ち出そうとして追放されたが、43 年後の再来日でも膨大な資料を持ち帰った。彼はこれらの資料で、ライデン、アムステルダム、ヴェルツブルク、ミュンヘンで日本をテーマにした博物館展示を行った。学問としての「民族学」が胎動しつつあった欧州で、ジャポニズムによる



<持ち出された伊能小図の写し>

日本趣味の先駆けとなる初めての本格的な日本展示だったといわれる。

この企画は関係者の 6 年間に及ぶ調査研究が結実したもので「シーボルトが構想した日本博物館の実態に迫る」展示だという。里帰りした展示品は文字通り、逸品ぞろい。シーボルト事件で没収された伊能日本地図は密かに写されて持ち出されていた。幕府天文方の高橋景保作製のカナ書き伊能特別小図の写図がシーボルト側で発見され、幕府に没収された地図が今回初めて実証された。将軍や老中から贈られた太刀、漆器をはじめ輸出用の漆工品。江戸のまちの風物詩であった蛸、鈴虫などを入れて売り歩く虫売りの籠、人気が高かった各種弁当箱のうち、酒付きのピクニックボックス、かるた、花札。大工道具と間違えられた香木を切り揃える香割道具など興味は尽きない(写真はいずれも監修・同博物館/青幻舎の図録から)。



<初公開の鳴滝塾の模型と、精巧な虫籠>

図は密かに写されて持ち出されていた。幕府天文方の高橋景保作製のカナ書き伊能特別小図の写図がシーボルト側で発見され、幕府に没収された地図が今回初めて実証された。将軍や老中から贈られた太刀、漆器をはじめ輸出用の漆工品。江戸のまちの風物詩であった蛸、鈴虫などを入れて売り歩く虫売りの籠、人気が高かった各種弁当箱のうち、酒付きのピクニックボックス、かるた、花札。大工道具と間違えられた香木を切り揃える香割道具など興味は尽きない(写真はいずれも監修・同博物館/青幻舎の図録から)。

### 新入会員紹介



◇井本 知子(79)=市原市若宮 ◇藤井 亜紀(47)=松戸市古ヶ崎  
◇黒木 喜三男(73)=船橋市三咲 ◇石川 京子(44)=稲毛市小仲台  
(敬称略、順不同)

### ◇これからの催し

| 催しもの                              | 開催日       | 時間                  | 場 所                           | 内 容 な ど                                                       |
|-----------------------------------|-----------|---------------------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| Düsseldorf市派遣の<br>奨学生との<br>交流・懇親会 | 8/18<br>木 | 18:00<br>～<br>20:30 | 「ミライザカ」船橋南店<br>船橋市:(旧「和民」)    | D市奨学基金、独日文化交流育英会派遣の学生・若手社会人6人<br>(19-26歳)と交流する。参加費用は3000円/1人。 |
| ビール祭り                             | 9/3<br>土  | 16:30<br>～<br>19:00 | 「アルテリーベ」=港区<br>新橋2-12-5池伝ビルB1 | 恒例の暑気払いを兼ねて、ピアノ、歌唱指導による飲み、且つ歌う。<br>会費:5500円/1人。               |
|                                   |           |                     | ☎ 047-420-7288                | 申込〆切は、7月郵送済みのはがきで8/20(土)まで。                                   |
|                                   |           |                     | ☎ 03-3519-7050                |                                                               |

訂 正 Die Eiche No.101 号: 新年度役員表(2面)のうち、◇理事〇中野奏行 ◇顧問、林静誠(敬称略)、新入会員紹介(6面)の勝見浩明=船橋市松が丘(同)に、それぞれお詫びして訂正します。

### 編集後記

◇8月号は、奇しくも日独の“温故知新版”のような誌面になりました。第一次世界大戦中の「習志野俘虜収容所」の兵士から伝授されたドイツ式ソーセージの製造と飯田技師の残した記録遺産。シーボルトの日本に寄せた調査・研究の熱意の源は。18-19世紀にかけて民族誌、民族学の概念が考案されたゲッティンゲン大学で学んだ父。息子は「民族学誕生の現場にも近いところにいた」という説も興味深い。昨年同館で開催された「ドイツと日本を結ぶもの」展といい、ドイツに渡った高度な「日本文化」には目を見張られる◇創立20周年で協会のロゴマークと、Eiche総集編(Ⅱ)のデザイン、10/22の記念式典の概要が決まりました。私たちは地味でも“身の丈に合った”日独交流の新しい歴史を刻みたいと願います。(M.T.)